

A. 主な動き

1. 内政

大統領選出に向けた動き

・31日、ルプ大統領代行(民主党党首)は、憲法裁判所の独立を確保する必要性を指摘、大統領選出に関する憲法第78条解釈の審議が予定されている9月20日までは大統領選出に関する議論は控えるべきと発言。

・31日、ヴォローニン共産党党首は、憲法裁判所は大統領選出に関する判断を早急に下すべきである旨指摘、大統領選出に必要な議席数を削減使用とするA EIの試みを非難、共産党はA EIの大統領候補を支持することは無い旨発言。

・2日、ギンブ自由党党首は、今後、自由民主党と共産党による合意が形成され、再度の期限前議会選挙が実施される可能性は排除されない旨発言。

その他

・27日、フィラト首相は、独立20周年に際するモルドバの最優先事項を欧州統合とし、EU加盟に向けた国家目標策定に向けた団結力が必要である旨発言。

・30日、フォルムザル・ガガウズ自治共和国首長は、モルドバの政治危機の克服を目的とした、同首長を代表とする新たな政党創立の可能性に言及。

・31日、ツルカン「統一モルドバ」党党首は、同党は議会外政党数党との統合に向けた協議を行っている旨発表。

・1日、共産党は、6月の地方選挙の際に、情報安全保障庁を始めとする政府機関による同党関係者に対する傍聴及び個人情報へのアクセスが試みられたとし、検事総局に捜査開始を要求。

2. 外政

9月1～3日、リーベルマン・イスラエル外相の来訪

・1日、ルプ大統領代行は、リーベルマン・イスラエル外相と会談、二国間政治対話及び貿易経済協力の強化、両国のディアスポラが抱える諸問題、モルドバ内政及び沿ドニエストル問題等につき協議。

・2日、フィラト首相は、リーベルマン・イスラエル外相と会談、二国間関係、貿易経済分野における協力、国際場裡にお

ける協力等につき協議。リーベルマン・イスラエル外相は、モルドバ国民に対するイスラエル査証手数料の廃止を発表、モルドバ・イスラエル政府間委員会の積極的な活動に期待を表明。

・2日、レアンカ外務・欧州統合相は、イスラエルがモルドバに対し35万ドル分の薬品を無償提供する予定である旨発表、モルドバ国民のイスラエル査証手数料廃止に関しては、将来的には査証が廃止される可能性もある旨発言。

その他

・1日、レアンカ外務・欧州統合相は、バコンスキ・ルーマニア外相の招請に応じ、ブカレストで開催されたルーマニア大使会議に賓客として参加、両国外相は、過去20年の外交関係の進展、モルドバの欧州統合に対するルーマニアの貢献等につき協議。

3. 沿ドニエストル

・31日、スミルノフ「大統領」は、「5+2」協議におけるモルドバと沿ドニエストルの対話は対等なものであるべきとし、沿ドニエストルの立場は6月のモスクワにおける非公式協議の時点から不変である旨発言。

・1日、スミルノフ「大統領」は、沿ドニエストルはロシア、ベラルーシ及びカザフスタンの関税同盟にオブザーバーとして参加できるよう期待する、然るべき書簡を露側に送付した旨発言。

・2日、スミルノフ「大統領」は、「共和国独立」21周年に際する演説において、沿ドニエストルの肯定的な変化を強調。一方、同日、カミンスキー「最高会議議長」は、沿ドニエストルは多くの負債を抱えており、具体的な経済危機対策が必須である旨発言。

・2日、レアンカ外務・欧州統合相は、グルィズロフ露国家院議長が沿ドニエストルの「独立」21周年に関する祝辞を发出していた場合、モルドバ側は然るべき対応を行う旨発言。

4. 防衛

・27日、独立20周年記念軍事パレードをキシナウで実施、軍人等1,500名以上、軍事車両65両が参加。

本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と標記しています。

(了)